

会 議 録

1 会議名	平成19年度第6回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成20年2月8日(金) 午後2時～4時
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター2階会議室
4 出席者	<p>【委員】江連俊, 手塚敏子, 沼田良, 古橋悟一, 青木定夫, 江連功, 小嶋耕一, 齋藤功, 齋藤和之, 佐藤きよ子, 塩井洋子, 柴田征男, 手塚光彦, 古橋正好, 松田仁一, 和田春海, 大木清茂, 小野三朗, 北見幸夫, 佐藤和男</p> <p>【事務局】上河内地域自治センター所長, 参与, 地域経営課長, 地域経営課主幹, 地域経営課長補佐 ほか16名</p>
5 公開・非公開	公開
6 傍聴者数	<p>【傍聴者】なし</p> <p>【記者】1名</p>
7 会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 報告事項 宇都宮市環境基本計画に係る地域別環境配慮指針の改訂について</p> <p>4 協議事項 まちづくりの提案について 今後のスケジュールについて まちづくりの課題抽出について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>

議 事	
4 協議事項	まちづくりの提案について 今後のスケジュールについて
会 長	・まちづくりの提案について, 今後のスケジュールについて事務局より説明願いたい。
事務局	・今後のスケジュールについては, 平成20年7月を目標に課題の抽出を行い, 9月までに課題を整理したい。10月から12月の間でまちづくりに関する施策の案を作成し, 平成21年1月中に案を確定し, まちづくりの施策として提言する予定で考えている。
会 長	・スケジュール案が事務局より説明されたが, 状況により変更もあり

	<p>えると思うが、スケジュール案を基本として進めて行くことでよ しいか。</p> <p>(「異議なし」)の声あり</p>
まちづくりの課題抽出について	
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの課題抽出についてを議題とする。 ・提言をまとめていくためには、上河内の地域の特性を考えた中で地域の課題をひとつひとつ抽出し、解決の糸口を考えていきたい。 ・課題の抽出については、広範囲であり現状を把握し整理することが難しいが、各グループに課題の整理をお願いしているため、各グループの状況を報告願いたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、起草グループから報告する。 ・状況を報告する前に、1月21日に開催された調整会議での協議内容を報告する。 ・まちづくりを進めるためには、幅広い課題を抽出し、共通理解した中で何ができるか検討していくことが重要である。しかし、限られた時間の中で効率的に課題を整理するため「まちづくりに対する課題抽出」のやり方について協議した。 ・協議の結果、課題抽出のテーマについては行政の縦割りの視点ではなく、生活に密着したテーマにより各グループとも別々のテーマにより進めることとなった。また、グループ協議の中で意見が出しやすいように、初めての試みであるが、ワークショップ方式を取り入れることで決定したところである。 ・それでは起草グループの報告をする。自分たちのグループは、「地域の人たちが、出会い、語り合い、ふれ合う場をつくるためには」をグループのテーマとして現状には何があるか、何が足りないか、何をしたら良いかの中で、今回は「現状に何があるか」を中心に協議した。初めての試みのワークショップによるポストイットは、なじみがないことから最初はスムーズに張り出しができなかったが、ひとりが書き出すとどんどん進み、2時間の会議があっという間に終了となり、たくさんの意見を集めることが出来た。意見の内容は地域の祭り、運動会、カラオケなどのイベントがある中で、今後地域に必要なイベントは何があるかなどが話し合われた。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて調査グループの報告を願いたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・調査グループは「地域で楽しく暮らせる、地域資源を利用するため

<p>会 長 委 員</p>	<p>には」をテーマとして協議した。テーマに沿ってどんなことが考えられるか、自由に意見を出してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源とは何かという観点からは、自然、建物、名所旧跡などがあげられた。また資源を有効活用するためにはという観点からは、羽黒山の道路整備や羽黒山で行われているハンググライダーを利用した全国大会の開催などの意見が出された。また、梵天の湯にレンタサイクルの設置、サイクリングロードの整備、更にはロードマップの作成など次々に案が出された。しかし、まだ地域資源の全体像を捉えるまでいたらなかったこともあり、地域の資源を再度検証するため地域を一巡することになった。今後はグループにおいて、再度地域資源の洗い出しを行い、整理分類し、具現化するための方策を検討していきたいと考えている。 ・続いて、広報グループの報告を願いたい。 ・広報グループは、「地域で安心して、安全に暮らせるためには」をテーマに協議した。前の2グループと同様な方法で実施し12分類にまとめた。
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策については、最新情報や具体的な施策を取り上げ、出来る限り全体像を把握しながら地域に不足している安全確保について協議した。特に、高齢者の一人暮らし世帯が増加していることや地域社会の核家族化が進んでいることなどから、干渉されることを嫌い、コミュニケーションが希薄になっているとの意見が出された。
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三グループから報告があった中で、何か意見や質問はないか。 ・各グループの意見は、この地域に密着した貴重な意見である。特に、広報グループでの意見など身近な問題となっている。 ・参考であるが市では、災害時における要援護者を把握する方法として独居老人該当者と思われる方に手紙を出して、名簿に載せて良いか問い合わせをしている。しかし、返事をしない方をどうするかという点で課題が生じているようだ。これを見る限り、独居老人の名簿を作ろうとした時は個人情報保護法が障害となっているのが事実である。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先程の報告にあったが、いざという時に頼れる人的ネットワークが形成されているはずの上河内地域でさえ、住民の連帯感が薄れている現状に驚いている。今後は地域社会でのセーフティネットをどのように張っていくか、重要なテーマとなってくるだろう。 ・個人情報保護の価値観と災害時などの有事の際のセーフティネットの客体把握ではどちらが大事なのだろうか。もう少し柔軟性のある

	<p>対策を国は示すべきと思うがどうか。上河内地域の問題だけではないはずだ。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・三グループが取り組んでいるテーマを全体で論議できる機会が欲しい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼怒川の船頭鍋がブームを呼んでいると聞いているが、どのようなものなのか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・上り鍋と下り鍋がありイベントなどでは引き合いがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼怒川を資源とした筏下りをお祭りのイベントとして企画し、市内流域地域の交流が図れないだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併1市2町を結ぶ共通資源でもある、鬼怒川といった捉え方から何か発展しそうな可能性を感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードを鬼怒川沿いに作れば、その可能性も同様に大である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・上河内地域だけを考えるのではなく、市全域に関連付けして考えるのが大事ではないのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを具現化させ道筋付けて行くことが重要だ。独居老人世帯の見回り対策などは、市の高齢福祉課でも障がい者対策と合わせて実施している。つまり他の施策との関連性も考えていかなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最もだが、第一回目はとにかく課題の抽出が目的なので、整理がついてから段階を経て、実現の可能性を詰めて行くことになるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールに従って徐々に詰めて整理した後、行政にお願いするものについては関連課に働きかけることが必要ではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ単位で情報を収集する中で、行政は今何をやっているのか疑問が生じると思う。それに対し行政から話を聞かせてもらうなど積極的な活動をしてもらいたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを進めるための課題がまとめられているので、各委員の意見を一人ずつ聞かせてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併後の地域にとってまちづくりの必要性を理解してもらうには、自治会の総会等で説明を行うなどの、機会を設けるべきではないか。また商工会の存在が薄いことから、進入路を拡幅することや国道に案内板を表示するべきではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中里原区画整備事業の早期着手とスマートインターのアクセス道路の整備が進めば定住人口が見込め北の玄関口となると思う。また、それに伴うまちづくりについても行政側から支援を得て、地域の発

委員	<p>展は地域の力で作っていきたいのでよろしく願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを子どもたちに知ってもらうには、地域で作った食べ物を食べてもらうことが必要ではないか。林道が未間伐であるため暗いところが通学路になっている場所があり、防犯対策の点から間伐を行いたいのので、予算の措置を願いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併後、軽油免税券の手続きや確定申告には非常に手間が掛かるため、合併が失敗したという声がある。また全市対象のアンケートでは、上河内地域に住みたくないという人が74パーセントも居ることから、中里原区画整備事業の早期着工と大型商業施設の誘致などで地域の活性化してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併して良かったという意見は一人も聞かない。市民協働の推進についても漠然としているので、住民意識の啓発を積極的に入り込んで展開してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併後の行政サービスでは、旧宇都宮市がやっていないから旧上河内町の事業はやらないといった内容が見受けられる。これが地域格差を助長させているのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然歩道や遊歩道を散策し、景観を楽しむ英国式フットパスを推奨し、実現したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3世代で暮らせるまちづくりを目指してほしい。この地域が雪だるま式に衰退しないよう、大木のように自力で生きていけるような環境になることを願っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題と障がい者、高齢者との共生社会の実現が最も優先すべき課題と考える。大型商業施設を作ったただ単に経済を発展させるのではなく、周辺の福祉施設を整備したユートピアを創造させる開発が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・独居老人世帯が増えないような、3世代同居可能なまちづくりが必要と思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・梵天祭の実施については、旧町の時とほぼ同様に実施できたことについて感謝したい。合併後軽油免税券の手続きや確定申告は、遠くまで出向くことになって住民が困惑している。マイナス面が出ないよう行政に考慮してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のイベントについては、とりあえず19年度中は旧町と同様に行えたが、今後の住民負担によるイベントが理解してもらえるのか心配である。また、負担金が多くなることで、自治会加入率の減少にも拍車をかけ、地域の連帯感がなくなることとも予想される。今後どのように地域住民に説明すれば理解が得られるか不安である。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・景観が豊かな地域であるが、最近、不法投棄や空き缶等のポイ捨てがあり憂慮している。この地域に魅力を持たせる方法として、農作物の特産品を作ってはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の足の確保として、ユッピー号は重要なものと考えているが、存続を考えるならば清原地区のバスの運行についても参考にするべきである。保健センターを宇都宮市全体で使えるような温泉を利用した「温泉療養施設」として活用できないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治センター3階はほとんど利用されていないと思っている。旧議場をコンサートホール等にして、一般市民に開放して交流の場所にしてはどうか。産業文化祭の補助金の見直しは各種団体の存続に危機を感じさせると同時に、市の進める市民協働がこの地域の連帯感を薄めているように思える。19年度の産業文化祭には巡回バスの送迎が無く、参加したいが交通機関がないために参加できなかったという声があったことから、山間地域にとってイベントの際の交通機関は重要なので、今後配慮してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併により当地域は市の北端となった。時の経過につれ市長にとって地域の存在が薄れないような、北部地域の形成を考えてもらいたい。また地域自治制度については常に検証してってもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに地域を知ってもらうために、以前に実施していたチャレンジキャンプを再開してほしい。また各世代の意見を聞きたいのでアンケートを実施したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併したメリットを住民に説明するのは、どのような話をすればいいのか意見を聞かせてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市50万都市の知恵と資産を上河内が使えるようになったということである。短期的には日常の手続き上で不便を感じる点があるだろうが、長期的に見ると財政上比較的豊かな自治体であるため満遍なく投資することができる。職員も約3,500人いるので専門的知識が行使でき、合併したメリットがじわじわと現れてくると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の認識は薄い、まちづくりについても温度差があり、いかにして温度差をなくしていくかが課題と思われる。まちづくりの提言についてもスケジュールに従い、良いものができるよう頑張りたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員の意見は、地域の課題として今後検討するとともに、まちづくりの課題は、いろいろな分野ごとにまだたくさん議論していく必要があるので、グループ会議で十分協議願いたい。

5 その他	
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の件で事務局から何かあるか。 ・第7回自治会議の開催日程については、3月中旬に予定している。また本日、地域自治センターにおいて午後6時30分より「まちづくり懇談会」が開催されるので、委員にはできる限り参加願いたい。
事務局	
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会議と地域づくり課の「まちづくり組織」との位置付けはどうなっているのか。また自治会議の提言は、「まちづくり組織」の形成にどのように活かされるか。 ・「まちづくり組織」は旧宇都宮市域では組織化されているが、合併した上河内と河内の組織化はまだこれからということになる。今後、組織化ができた時に互いが連携して効率的なまちづくりが進められるよう、自治会議の中でもみんなで考えていきたい。
事務局	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度については、各自治会の役員にまちづくり組織の内容について説明をしてきた。平成20年度は地区連合自治会や各種団体などが協調し、市民協働のまちづくりを推進するための準備会を立ち上げたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併してよかったと思える地域にするためには、合併の効果を理解できるような噛み砕いた行政側の説明が必要だ。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、第6回宇都宮市上河内自治会議を終了する。